



2004 年 (平成 16 年)
8 月号 (No. 711)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-info@jac.or.jp

目 次

全国山岳遭難対策協議会の報告・	1
小倉茂暉君追悼の記……………	4
100周年ニュース……………	5
海外の山……………	6
報告……………	7
科学・探索山行・会津七ヶ岳	
／医療・第24回登山医学シン	
ポジウム／第46回有志閑談会	
／三水会・韓国シリーズ	
Climbing & Medicine・36…………	10
支部だより……………	11
富山	
図書受入報告・新入会員…………	12
東西南北……………	13
マライーニ氏の告別式に参列	
して／下落合町内会の話／「徳	
本峠越えとウェストン祭」	
会務報告……………	16
ルーム日誌……………	17
INFORMATION……………	18

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木…………… 10～20時
水・金…………… 13～20時
第2、第4土曜日…………… 閉室
第1、第3、第5土曜日…………… 10～18時

全国山岳遭難対策協議会の報告

指導委員会担当理事 黒川 恵

夏の登山シーズンを前に、7月8日と9日の2日間にわたって、高知市で平成16年度の全国山岳遭難対策協議会(第41回)が開催された。この協議会は、文部科学省や警察庁などが主催するもので、各都道府県の山岳関係者や警察、消防などから約250名が参加した。

■ 昨年は過去最悪の1666人が遭難し、死者・行方不明者は230人

警察庁のまとめで、平成15年中に全国で発生した山岳遭難の件数

は、1358件で遭難者数は1666人だったことがわかった。これは、前年と比較して発生件数では10件増加し、遭難者数は35人増加したことになる。

平成10年以降連続して発生件数が1000件を超え、警察庁が統計を取り始めた昭和36年以降発生件数、遭難者数ともに過去最高となった。最近10年間の発生状況は別表のとおりで、昨年と平成6年を比較すると、

◇ 発生件数584件増加(75・5%増)
◇ 遭難者数704人増加(73・2%増)

◇ 死者・行方不明者数24人増加(11・7%増)
といずれも大幅に増加している。

■ 40歳以上の中高年登山者が全遭難者の約8割

年齢別発生状況は、別表のとおりで、60歳から64歳が最も多く、15・8%となっている。また、過去10年間にわたる40歳以上の中高年登山者の遭難者数は別表のとおりで、昨年は過去最悪の1298人となっている。これは全遭難者数の77・9%を占めている。

■ 事故原因のワースト・スリーは「道迷い」「滑落」「転倒」

遭難原因を態様に分類すると別表のとおりで、道迷いが圧倒的

に多く約4割となっており、滑落、転倒、病気、転落が続いている。

■ 約4割の遭難者が事故現場から直接救助要請

全遭難件数の38・9%が遭難現場から何らかの通信手段を用いて救助要請をしている。このうち携帯電話で救助要請をした件数は514件で37・8%であった。

警察庁は、携帯電話は万が一の連絡手段としては有効であるが、決して万能ではないとした上で、予備バッテリーの持参や要所での事前感度チェック、低温などによる機能低下の防止など注意点をあげている。

(資料は、「平成15年中における山岳遭難の概況」(警察庁)から抜粋しました)

「全山遭」分科会に参加して

第2分科会テーマ

「中・高年登山者の指導と育成」

■キーワードは「未組織登山者」と「中・高年」

最近6年間の分科会でいつも課題となるのが、未組織登山者の育成と中・高年登山者の遭難増加である。それに関連して、「ツアー登山」のありかたも大きなテーマとなってきた。また、青少年の学校登山や山岳部活動の低迷などもとりあげられてきている。そんななかで、わが身と日本山岳会をふりかえてみたときに「我々にはいったい何ができるのか？」と考えさせられるのである。

私自身、本籍は日本山岳会で、現住所が登山専門旅行者だと心底思っている。大学山岳部とJAC学生部で育ってきたと言ってもいい。登山に明け暮れたおかげで、仕事も山に関係することになってしまったわけだ。だからJACには感謝している。ご恩返しのため、理学会の末席に座つてもいい。いまでは出身校のOB会活動より

JACの仕事に時間をかけていると言つても言い過ぎではない。そこでJACは何ができるのかを考えてみた。

■中・高年登山者集団JAC

およそ6千人の会員の平均年齢が60歳を超えたいま、日本山岳会が押しも押されぬ中・高年登山者集団と言えるようになった。

「新ハイキング・クラブ」や「おいらく山岳会」、「みろく山の会」、「ふわく山の会」など長い歴史をもち、活発な山行を行っている数多くの中・高年山岳会と平均年齢においてついに肩を並べることができたのだ。

しかし、JACは中・高年山岳会を標榜してきたわけではないからそこにこれらの課題がある。

■「社会人山岳会」的同好会活動への期待

組織内組織とも言えるJACの各同好会は、同期入会者の集まりが発展して同好会になったケースが多くあると思われる。スケッチや写真などテーマがはっきりした同好会とはすこし趣旨が異なるから、同好会の山行は、むしろ本来の社会人山岳会的と言えるのではないだろうか。

【過去10年間の山岳遭難発生状況】

区 分	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
発生件数	774	802	896	815	1,077	1,195	1,215	1,220	1,348	1,358
遭難者総数	962	1,022	1,133	961	1,341	1,444	1,494	1,470	1,631	1,666
死者、不明者	206	198	197	197	251	271	241	243	242	230
負傷者	341	390	467	419	439	555	635	615	684	677
無事救出等	415	434	469	345	651	618	618	612	705	759

【過去10年間の中・高年登山者の山岳遭難発生状況】

区 分	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
遭難者総数	962	1,022	1,133	961	1,341	1,444	1,494	1,470	1,631	1,666
中・高年者	613	697	808	725	1,023	1,158	1,135	1,127	1,223	1,298
比率	63.7	68.2	71.3	75.4	76.3	80.2	76.0	76.7	75.0	77.9
死者、不明者	206	198	197	197	251	271	241	243	242	230
中・高年者	139	158	157	173	209	235	206	221	219	213
比率	67.5	79.8	79.7	87.8	83.3	86.7	85.5	90.9	90.5	92.6

【態様別発生状況(人員)】 【年齢別発生状況】

区 分	計	年齢別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
滑 落	262	～15	1	10	0	0	11	16	6	10	4	2	4	3	67
転 倒	228	15～19	1	1	3	1	4	3	5	13	2	4	5	9	51
転 落	124	20～24	2	1	2	1	3	4	1	14	7	4	1	1	41
道 迷	640	25～29	4	3	1	0	9	7	9	8	7	5	9	8	70
疲 勞	77	30～34	8	2	4	8	3	6	12	10	4	4	2	2	65
病 気	152	35～39	4	4	4	5	7	5	12	12	8	9	4	0	74
落 石	21	40～44	5	2	1	5	5	13	13	10	11	6	4	0	75
雷 害	4	45～49	2	4	3	3	8	7	8	12	9	11	2	1	70
落 雷	1	50～54	6	5	8	11	29	23	22	24	23	28	10	5	194
天 候	15	55～59	18	3	9	10	38	21	34	34	21	34	13	6	241
有 毒 ガ ス	0	60～64	8	6	12	11	30	29	40	45	23	34	18	8	264
鉄 砲 水	1	65～69	7	1	11	11	29	36	13	21	18	16	29	2	194
野生動物襲撃	35	70～74	4	3	3	6	19	19	7	13	16	26	11	1	128
不 明	24	75～79	0	1	1	11	21	10	4	8	6	13	7	0	82
その他	82	80～84	0	2	2	5	8	5	2	1	4	5	3	1	38
計	1,666	85～89	0	0	0	1	2	2	0	2	1	0	1	0	9
		90～	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
		不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	70	48	64	89	226	206	189	237	165	202	123	47	1666

せっかく日本山岳会へ入会された会員番号5桁の会員の退会が最近はどうも目立つようである。なぜだろうか。私たちが入会したころは、JACの仲間と国内登山をしようとは思っていなかったし、そういう機会も多くなかった。学生部の延長から会員になったようなもので、そんな仲間との海外遠征が夢でもあったし、競争相手としてよい刺激にもなった。

でもいまは大きくながつていてではないだろうか。JACに入会される中高年登山者のみなさんが、もし、JACで山仲間を見つけて生涯登山を楽しもうと考えておられるとしたら、「会山行」の少なさにきつとびつくりし、残念がるのではないかと思う。

同好会活動が活発になることは、そんな新規入会者への期待に応えることにつながってゆくと、私は思っている。そして、それは、登山界が直面している課題でもある「未組織登山者の育成」へ大きく貢献し、ひいては山岳遭難事故の防止にもつながることだと言えるのではないだろうか。

■「ケガと弁当自分持ち」

と、言うからかどうか知らない

が、長野県知事が「救助ヘリコプターの有料化」を口にした。当然賛否両論があつてよいだろうが、「金がないから救助要請できない」なんてことになってはいけない。山では「セルフレスキュー」が第一義であることは当たり前だが人命は重い。

救助ヘリ有料化については、山岳救助現場の声をもつとよく聞いてから慎重な発言をしてもらいたいとおもつたのは私だけだろうか。山には信号機がないから、行くかもどるか決めるのは自分自身だ。登山は自己責任、と言われる所以はそこにあると思う。責任とは、必ずしも救助費用を負担するのではないかということだけではないはずだ。

警察や救急が有料で出動したら「金出すからヘリを出せ」なんてことにはならないだろうか。いつそのこと、「相当額の寄付制度」にしてしまえばよいのに。そうすれば、「自己責任認識度」を計るいい機会になる。

と、高知の全山遭に出席し、各都道府県でそれぞれ苦勞されている人たちと意見交換しながらしみじみと思った次第である。

山岳遭難事故合同調査へのご協力お願い

総務および指導委員会

警察庁発表の平成15年度中における山岳遭難発生件数は、1358件、遭難者総数は、1666人であり、うち死者・行方不明者数は230人でした。対前年では発生件数は10件増加し、遭難者数は35人増加しました。そして、発生件数は、平成10年以降6年連続して1000件を超えています。特徴としては、40歳以上の中高年登山者の比率が高く、体力、技術の不足や、気象判断の誤り、装備の不備等、登山の基本的知識を欠いたことによる遭難が目立ち、登山計画書の未届けも多いことが指摘されています。

このような状況下で、抜本的な対策を講じるためには、早急に遭難の実態を把握する必要があります。しかしながら、事故調査データについては毎年の全国山岳遭難対策協議会で発表される警察庁がまとめた概要一覧に頼るしかないのが現状です。

そこで、日本山岳会では、日本山岳協会、東

京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟が一昨年から開始し、成果をあげている統一様式による「山岳事故調査」に本格的に協力してまいります。

調査項目は広範囲におよび、複合型事故とも言える山岳遭難の実態を内的因子と外的因子から解析してゆくことを目的としたものです。すでに、第1回報告書(34頁)につづき、第2回報告書(64頁)が完成しております。

報告書をご覧になりたい方は、事務局へお申し出ください。2冊分のコピー代と郵送料金として1000円のご負担をお願いしております。

会員のみなさんが「山岳保険を請求する」部類の山岳事故に遭われた場合には、ぜひこの調査活動にご協力いただきたいと考えております。

調査表は、総務および指導委員会担当理事が管理しておりますので、お問い合わせは下記へお願いいたします。

黒川恵(勤務先電話03-3503-1915)

小倉茂暉君追悼の記



平成16年3月14日
73歳の誕生日に写す

竹内
哲夫

徳沢から帰ると、6月6日に小倉君が亡くなったとの知らせに驚いた。闘病中とはいえ、半月前の日本山岳会の総会で元氣そうな様子を見たばかりだったからである。ちょうどウェストン祭のときで、上高地の一番美しい季節でもある。小倉君は上高地の「山研」に人一倍の愛着を持っているように見えた。山研を造るにあたり大いに力を尽くしたことを知る人は多いが、毎年その開所閉所には出かけていたし、ウェストン祭の常連でもあった。ミニ水力発電のプロジェクトでは、官庁、地元の根回し、発電設備の設置、改修など絶えず山研に出向いては指導助言を行っていた。私たちジェネレーション

は、夏と冬の穂高合宿時のベースとしての上高地には共通する強い思いがあるが、徳沢に体育実技のテントを毎年張っていた早稲田大学出身の小倉君は特にそうだったように思う。

小倉君の日本山岳会への打ち込みようが、並大抵のものではなかったことは誰しも認めるところであろう。学生時代から当時のお茶の水の山岳会ルームで、錚々たる先輩にしごかれながら山岳会を手伝っていた頃から、一貫して日本山岳会にかかわってきたのが小倉君である。距離をおいて付き合っていた私などは雲泥の差がある。特に小倉くんがもっとも深くかわったのが総務関係の分野ではなかったかと思う。

日本山岳会における役員の経歴だけでも、理事、評議員、副会長の間を通過しただけで11年間にわたる。それ以前の役員以外まで数えると、まさに日本山岳会に一生を捧げた人と言えるだろう。山岳会のあらゆる経緯に精通し、生き字引のひとりであったから、それを踏まえた発言には重みがあり、しかも非常に冷静沈着で、ものごとの本質を見るに敏な才能を持ち

合わせていたと思う。かかる人物を失うことは、今、日本山岳会が100周年を契機として、将来への理想、展望を作って行かなければならない大事な時期に、計り知れない損失であろう。

私が初めて出会ったのは、お茶の水時代に渡辺公平副会長から、早稲田の小倉と蔵王へ行くようにとの指示があった時からである。山形県からの蔵王観光協議会への出席要請が山岳会に来たとのこと。以後、冬の富士や白馬で出会ったりして以来50年余りが過ぎた。最近になって東京の13大学山岳部のOB有志で構成されているメトロ会を作ったり、私自身が山岳会へ引つ張りこまれるに至ったのも小倉君の発想が元になっている。

古武士のような容姿風貌、低い重みのある声、論理的な説得力、独特な呑みっぷり、こうした印象は皆がイメージしていると思う。正義感の強い小倉君は終始一貫、筋道を達えることを嫌い、いい加減な妥協を好まない人であった。稀に見る貴重な存在であっただけに、いささか早い逝去は日本山岳会のためにも惜しまれてならない。心からご冥福を祈ります。

上高地山岳研究所 「管理人の募集」について

今年11月の「山研」閉所をもって、管理人の木村夫妻が退職することになりました。そのために来年度からの新しい管理人を下記の要綱にて募集いたします。会員の皆様のお知り合いに適任の方がおられましたら、ご紹介ください。なお会員は応募できません。

■期間 毎年4月25日から、11月10日頃までの開所期間

■資格 自然や、環境の保全等に興味のある、60歳位までの健康な夫婦で、期間中は上高地の施設に常駐できる方、車の運転ができればなお可。

*詳細は山研運営委員会の小川まで。

Tel 0424-89-4881

Fax 0424-89-4820

日本山岳会の『森づくり運動』について

今回の日本山岳会創立100周年事業の推進に当って、できるだけ多数の会員が参加できる企画を実施していくという基本方針がある。同時に、日本山岳会は創立当初より、単に山に登るだけではなく、山を含むすべての自然を大切にしていくという基本的理念を強くかけてきた。かかる2つの目的にかなったものとして、当会が実施しようとしている『森づくり運動』(植林、育林事業)がある。

単に現在我々が享受している豊かな自然をみだりにこわさず、保護し保全していくという「自然保護」の観点から、さらに一歩前にすすんで、貴重な自然を我々の手で作り出し育てていくという『森づくり運動』は長期的な視野にたって息の長い活動として推進していかなければならないし、また、多勢の人がかかわる活動として組織的にもしっかりしたものではなくてはならない。かかる意味で、あらたに第二世紀を迎える日本山岳会の記念事業として、誠に時宜に適ったものといえる。記念事業立案当初から認められていた「高尾の森づくり」に加えて、この度、「白神山地育林事業計画」と「猿投の森づくり」が7月の理事会で記念事業として認められた。

以下に3つの団体の活動概況を記する。

■自然保護委員会 「高尾の森づくり」

「高尾の森づくり」の7月の定例作業に出かける。集合場所から定刻に出発する。会の発足時から集合時間ではなく、出発時間厳守でやっているの定刻に遅れると車に乗れない。最近では遅刻する者は皆無だ。今日の作業はここ4年間にを行った植林地の下草刈り。たくさんある作業の中で最もキツイといわれている作業だ。今回の作業前の注意事項は落石、蜂、熱中症。あらかじめ決められている班編成に従ってただちに作業に入る。最近になって大汗をかく快感が分かってきた。私は8月に行う「高尾子供キャンプ」の下見と、来年の日本山岳会創立100周年記念植樹祭植林候補地の下見と間伐する木の選定。そして現在計画中である「作業場に使うための山荘建設計画」の測量に汗を流した。

日本山岳会創立100周年記念の「森づくり運動」は高尾、白神、猿投の3か所となった。全国に森林ボランティア団体が1000以上あると聞くと、ひとつの団体が全国規模で、しかも山地で森づくりをしている例は他になく、ユニークである。これからは3支部が力を合わせてこの活動を充実させていきたい。

(河西 英一郎)

■青森支部 「白神山地育林事業計画」

東海支部が愛知県から提供を受けた森は全体で約150㍍、猿投(さなげ)山(629㍍)の北面にある。ひと昔前までは瀬戸の窯業を支える薪炭林として酷使されたが、今は放置されている。森は温暖帯に属し、①禿山、②先駆性針葉樹(マツなど)、③先駆

性落広樹(ヤシバシ類など)、④非先駆性落広樹(コナラなど)、これに混交して⑤先駆性常広樹(ソヨバなど)、⑥極相性照葉樹(カシ類など)へと遷移するが、今は④、⑤の段階にある。

150㍍の8割が広葉樹林で、2割がスギなどの人工林である。私たちはここで5つの活動(施業や調査)を行うが、なかでも最も力を入れるのは環境林への誘導である。広葉樹の遷移を途中相に止めて、生物多様性、景観形成とレクリエーション利用、水土保持など公益的機能のすぐれた環境林にしたい。⑤と⑥の伐採および④の高木も25%くらい伐採して林床に陽光を入れ、下層植生を豊かにしたい。

(橋村 一豊)

■東海支部 「猿投の森づくり」

ブナの大木におおわれた白神山地が人類が後世に残すべき貴重な遺産として、世界遺産地域に指定されて久しい時がたった。

貴重なブナ林が密生するコアゾンを過度の開発から守り、自然な状態を維持するためにバッファゾーンが設けられている。ところが世界遺産地域の境界線の青森県側に南に大きく切れ込んでいる所があり、この奥のバッファゾーンの幅が異常に狭い。これは赤石川に沿って伐採が進み、植林された杉が雪の重みで変形してしまった無惨な森である。

この最奥地に森を育て、自然を復元しようとする事業をぜひ100周年記念事業の一環として推進したい。来年(平成17年)6月18日には植樹祭を実施し、周辺のエクスカッションを計画している。宿泊は鯉ヶ沢町の熊の湯を予定している。大勢の山岳会員の参加を期待したい。

(根深 誠)

海外の山

K2とその周辺

江本 嘉伸



『スキルブルム7360』より

7月17日、パキスタンから「サヴォイア氷河で日本人の遺体が発見された」との知らせが、神奈川県中井町の高校教師、尾上弘司のもとに届いた。尾上は1997年8月20日、雪崩の爆風でテントごと飛ばされ、隊長の広島三朗以下6人の犠牲を出した神奈川ヒマラヤ登山隊のメンバーである。教員たちを主力とする隊でスキルブルム峰(7360m)に

見事登頂を果たし、明日は撤収というその夜、自然の猛威に屈した。

この遭難についての経緯は、報告書『スキルブルム7360』に詳しい。逝った友への深い友情の心と、冷静に事故原因を分析し、後に続く者のために役立てる報告書にしようという編集者の思いが伝わってくる報告書である。

2002年8月号のこのコラムで書いたが、神奈川ヒマラヤ登山隊のメンバーの遺体は、2002年夏、K2BCから1・5時間ほど行ったアイスフォールが始まる地点のセラックス帯付近で見られている。尾上ら2人が現場に行き、着衣とシュラフから5人の遺体を確認した。K2登頂者(77年)でもある隊長の広島、同じく77年のK2隊員だった中込清次郎、土森譲、96年バインターブラック登山隊の隊長をつとめた永澤茂、そして菊田佳子隊員。いずれもシュラフに入ったままの状態だったため、比較的容易に確認できたようだ。77年のK2隊副隊長だった原田達也だけが、見つからなかった。それから2年たったの遺体発見。19日になって、尾上はその遺体がスキルブルム峰で亡くなった原田達也に間違いなしとの確証を得、26日に日本を出発した。K2BCで遺体を

茶毘に付すつもりである。

「これで6人の仲間全員が出てきたことになりました。長い7年間でしたが、ようやく本当の区切りができそうで安堵しています」と、尾上は出発前、そんなメールをくれた。

遺体に執着するべきでない、との考えもあるが、ただひとり行方不明のままのメンバーを確認し、遺骨を家族に渡せることは、生き残った仲間の最後の願いと言えるだろう。原田の「帰還」は、スキルブルム峰遭難の決着となる。

K2は、イタリア人の山、と前号で書いたが、日本人にとってもエヴェレスト以上に縁の深い山だ。イタリア隊の初登から23年たった第2登をやったのは、1977年の日本隊である。原田達也は社会人山岳会中心の猛者ぞろいだっただ、その隊の副隊長をつとめ、絵心の深い温厚なその人柄が隊の雰囲気をつくりあげた。

西稜からの新ルートに登攀した早大隊、12名の登頂者を出した日本山岳会青年部隊、さらには無酸素単独登頂をなしとげた戸高雅史、山野井泰史などこの山での日本人の活躍は登山史に残るものだ。そして、エヴェレストに較べて遭難死も少ない。それだけ実力のあるクライマーが目指すからだろう。初登頂50周年の今

年は、62歳の近藤和美を隊長とする「日本勤労者山岳連盟第3次K2登山隊2004」の9人が、執念の登頂を目指し、8月7日、矢野利明(51)以下4人の隊員(うちひとりは無酸素)と2人のネパール人シェルバが登頂した。

このほか、今年のK2には、7月26日、スペイン隊の4人(オイアルザバルが2度目の登頂を果たした)、27日にイタリア隊の7人、中国・パキスタン隊の9人(7人のチベットの隊員が登頂)、28日、イタリア隊の5人(うちカール・ウンテルキルシャーはエヴェレストとK2を無酸素で2か月以内に登頂した)など、約50人が登頂している。

各国の第一線クライマーがフリーな形でともに登るユニークな国際隊に参加した竹内洋岳。4月以来、途中の一時帰国をはさんで4か月で、チベットの7200mピーク、アンナプルナ、そして今度はGⅠ(ヒドゥン・ピーク)をほとんどトップでルートワークし、7月25日登頂した。仲間から一目も二目もおかれていた竹内の強さと登山スタイルは、当然注目の的である。

今回は時間切れとなったが、実はさらにGⅡ、そしてK2の許可をとっていたというから驚きだ。

報告

8月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

科学委員会

探索山行・会津七ヶ岳に 山の姿とその生い立ちを学ぶ

私どもは日頃山に登るとき山の形には強い関心を持つが、それがいかに形成されたか正確に知ることは少ない。本年の探索山行は、七ヶ岳を例に地形的な特徴と地質学的形成史を斯界の権威から現地ですぶまたとない機会であった。

6月12日朝、本隊はバスで池袋を出発、高速道の渋滞で若干遅れたが湯の花温泉に参加者26名と講師が集合、地元の江花委員の先導でさっそく大嵐山に向かった。台風4号の影響が懸念されたが、幸い東にそれたため雲は多いが穏やかな天候に恵まれ、花々をめでつつ沢沿いの気持ちの良い林を登ることで2時間、稜線に出たところで講

師から七ヶ岳を眺めながら台地状に見える地形の特徴と成り立ちにつき説明を受けた。その後頂上を往復して下山、宿舎の会津アストリアホテルに入る。ここで講師の山元孝広先生(産業技術総合研究所深部地質環境研究センター・長期変動チーム長)から「七ヶ岳の地形的特徴と地質学的形成史」というテーマでお話を伺った。

七ヶ岳は約700万年前の巨大な奥鬼怒カルデラからの大規模火砕流による駒止峠火砕流堆積物からなる台地にあり、その下には約9百万年前にできたオドシマ沢火砕流堆積物がある。後の火山活動で東側が陥没して七ヶ岳の急峻な東面となったので、そこにこの2つの地層が見られる。下部は低温で堆積したため気泡が多く割れ目の少ない軽石火山礫凝灰岩からな

り主にナメ滝を形成し、上部は高温で堆積したため熔結して硬く、垂直な割れ目(柱状節理)のある岩峰となっているとのこと。さらに会津カルデラ火山群の形成の歴史にも触れられた。興味深いテーマに質問が相次ぎ予定時間を越えての盛会であった。

翌13日は好天に恵まれ、小鳥の囀りを聞きながら、昨夜の講演を思い出しつつ七ヶ岳東面の平滑沢に登り、下部のナメ滝や上部の柱状節理のある岩峰などを確認できた。頂上では改めて会津の山々の生い立ちなど説明いただき、那須、

日光にかけての山々の素晴らしい眺望を楽しみながら長い高杖スキ―場をのんびり降り、温泉で疲れを癒し充実した山行を終えた。

今回の探索山行は天候にも恵まれ楽しい山歩きだったが、何よりも何百万年にわたる地質の変動による造山活動を現地でもの当たりにして学ぶことができたことは得がたい体験であった。これも事前踏査にも参加され、豊富な資料を準備され、私ども素人にもよく理解できるよう説明していただいた山元先生のおかげで、心から感謝申し上げたい。(岡田 尚武)

おれ にんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——

黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて

探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、デルスー像の検証から、二人の友情、自然と人間のかかわりを豊富な資料を駆使した巧みな筆致で探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)



カラコルム・ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ B全判地図13葉
宮森常雄(秩父宮記念山岳賞受賞)・
雁部貞夫 共著 ・カテゴリーご請求下さい



◎好評発売中!!
34,650円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

医療委員会

第24回日本登山医学シンポジウム開催

5月29日(土)、30日(日)に橋本しをり会長(東京女子医大)の主催により第25回日本登山医学シンポジウムが開かれた。会場の東京女子医科大学は、大江戸線が開通してから、驚くほどアプローチがよくなっていた。総合外来センターは昨年7月にオープンされたことで、機能が優れ、デザイン的に目を惹きました。

シンポジウム「8千^{ドル}峰サポートの科学」では、恩田真砂美氏が「日中友好チャール・オユー女子合同登山隊2002」での高所順応トレーニングについて報告し、山本正嘉氏が高所登山に必要な身体能力とトレーニング法について報告した。三浦雄一郎氏のエヴェレスト登頂について、鈴木牧子氏は身体面の背景を、三浦雄大氏はB CにおけるPC運用の実際を、それぞれ報告し、大変興味深かった。三浦雄一郎氏の特別講演では、今回のエヴェレスト登頂の感動的な様子を物語るビデオ上映のあと、2008年に75歳7か月でチベッ

ト側からエヴェレストを再度登頂する決意を語り、衝撃を与えた。

一般演題は12題(低酸素室における高所順応トレーニング・睡眠の解析・息こらえ実験、山岳耐久レースや雪洞における生理的な変化、遭難の調査など)だった。シンポジウムの内容ともあわせて、低酸素室が一般的になりつつある現状がうかがわれた。

また、橋本会長が「生涯スポーツと登山」と題して講演し、豊富な海外登山経験と医学的研究について話し、最近では乳癌患者の癌克服登山に参画していることにも触れている様子が感銘を与えた。

功労賞は日本登山医学会の設立と発展への貢献に対して中島道郎氏と斎藤惇生氏(本会元会長)に、奨励賞は「高所登山が男性生殖機能に及ぼす影響」の研究に対し奥村昌央氏に授与された。本研究は、『山』6月号医療コラム欄に掲載されている。

最後に、増山茂氏が教育講演において、突然死症例について、4名の回答者に症状から死因を推測させる討議形式で検討を加えた。『実際の役立った』という感想

創立100周年記念事業にご協力を

が多く聞かれた。

次回は山本正嘉氏(鹿児島・鹿屋体育大学)によって開かれる予定です。今回、参加者は100名程度でしたが、多くの方に参加していただきたい充実した内容でした。一般登山者も本学会に出席されたり、登山医学会の会員になることをお勧めします。

(野口 いづみ)

第46回有志閑談会

小石川後樂園・涵徳亭で

第46回有志閑談会が6月12日、後樂園・涵徳亭で開かれ35人が集まった。

長老、中堅が相集う有志閑談会は51年前の昭和28年6月24日の「清水合偕香園時代を偲ぶ会」に始まると望月達夫さんが『山岳』第81年に書いている。第2回開催まで5年のブランクがあり今年が第46回という。

初期の閑談会に集った長老たちは天国に召され、当時は若手だった方々が長老となって古希を過ぎ

傘寿から卒寿を迎え、いま中堅といわれる人たちも還暦を過ぎた。5年ぶりに出席してみると懐かしい長老たちの何人かはすでに亡く、一抹の寂しさを覚えながらも遠方からの参加者もあり、久しぶりに旧交を温めている風情も閑談会のもよき風景である。

平山会長は「会員の減少傾向は続いているが、100周年の募金は2年目は初年度より増え、企業献金も読売から大口寄付があり、いっそう励みたい。ご協力をお願いする」と挨拶。次いで体調が悪く欠席となった渡邊兵力さんからの「100周年後の登山界の余技が変化するのか、しないのか、意見を整理してリーダーが正しい方向に進むのを願っている」との趣旨の手紙を小倉厚さんが代読。

続いて松丸秀夫さんが「昭和30年代に日本山岳会下落合町内会と称して豪傑たちが閑談していたエピソード」(別頁)を披露した。

松田雄一さんは「開戦直前だった昭和16年8月に学生に対して旅行禁足令が出され、登山も合宿も

三水会

韓国シリーズ第7回 谷離山・鷄竜山・冠岳山

5月30日(日)、仁川空港へ13時

だめになったが、翌17年4月に文部省体育局から学徒の登山を奨励する方針が示され、夏山合宿にお米の特配があり、冬山合宿もできるようにになった。しかし18年には戦局の悪化、学徒出陣があり、登山どころではなくなった。その頃、この後樂園に隣接して陸軍の需品廠があり、本会の那須川渡会員(当時陸軍中佐)が本土決戦に備えて雪中露営、部隊移動に伴う装備品の研究をしていた。需品廠に工科大の山岳部員が動員され東北大OBの那須川指揮官のもと磐梯山麓で雪洞、イグルーの実地試験などの楽しいひと時を過ごした。百年史の調査でわかった秘話である。また故佐々元会長は山岳博物館の建設を念願しており、遺志を継いだ後輩がポカラに山岳博物館を完成させた」と思い出を語った。閑談2時間半、菖蒲咲く庭園で記念撮影後、解散した。

(関塚 貞亨)



日韓総勢12名で韓国の山に登る

過ぎに到着。日本人10名、韓国人2名でチャーターした大型バスに乗り、忠清北道へ。中部高速道路を走って清州へ出て、報恩郡内俗離面へ行く。

俗離山は忠北、慶北両道の境界に立地しているが、忠北側に法住寺があり、開発が進んでいる。昔から小金剛と呼ばれ、景色が美しい。新羅時代から国が祭祀を定期的にとり行ってきた。

俗離面の門前町は整然と区画され、商店街がまとまっている。2食付きのオンドルルームのホテルに宿泊した。

31日、ホテルを出て、法住寺方向に歩くと、国立公園の料金所が

あり、入山料を払い、松林の中の車道を歩く。法住寺を左に見てしばらく車道を進むと、セシムジョン分岐があった。緑が濃くなり、溪谷の水量も多い。左へ行けば文蔵台で、右の溪谷沿いの山道に入る。天皇峰、毘盧峰、神仙台への道である。

將軍水を通り鉄階段を上ると観音庵があり、オオヤマレンゲの群落に出会う。また鉄階段を上って稜線に出て、左へ行くと神仙台・1020である。チョンポプ台・ムンス峰を経て文蔵台・1033の岩峰に登った。ここから下山して、セシムジョンを経てホテルに戻った。バスで大田郊外の儒城温泉へ。大浴場で汗を流して食堂へ行き、竹筒飯を注文した。副食が次から次と20種類ほどでてきて、どれもおいしい。皿の多さは湖南のようだ。満腹して錦江自然休養林の山小屋に宿泊した。

6月1日、6時に出発して鷄竜山の商店街に行って朝食。車道が東鶴寺の少し先まで続いている。途中、国立公園の関所(料金所)があり、係官が年齢を信用しない。若く見られたのだ。パスポートを見せて、数人の入山料を免除して

もらう。溪流を渡ると山道となる。新緑が濃くなり、前日同様、20年前とは様変わりしている。ウンソン瀑布の水量が少なく、この溪谷は全体に少ないようだ。

急傾斜の階段とガレ場を上って鞍部に出た。山頂は軍事基地で登れない。観音峰から三仏峰への縦走路をたどる。見晴らしの良い台地を過ぎて三仏峰の北側を巻いて分岐に出る。左へ行くと甲寺がある。右に下ってオヌイ塔に行き、階段道を降りて東鶴寺の横に出た。駐車場に行き、バスでソウルに向かい、明洞のホテルに宿泊した。

山の本の古書店

在庫目録年2回(5月・11月)発行
ご希望の方お申込ください。

ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に!



古書買入

晴山書房

東京都中野区上鷺宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

Climbing & Medicine · 36

高所を目指す女性への医学的勧告
—国際山岳連盟の医事委員会から—

堀井 昌子

国際山岳連盟 (UIAA) の医事委員会から「高所を目指す女性への医学的勧告」が発表されたので、要旨をご紹介します。高所における女性を妊娠の有無によって分けたものです。

妊娠していない女性について 急性高山病は男性と同じ率で発症し、月経の前や後に多いということはない。重症の高山病である高所肺水腫は女性に少なく、手足や顔の浮腫は女性に多い。また、月経周期は高所で変化するが、その要因は、時差、運動、寒冷、体重減少など、あるいはこれらの組み合わせであろう。鉄不足による貧血と診断されたら、高所に行く前に鉄を補充する治療を受けるべきである。妊娠中の女性について ①アプローチ (トレッキング) では産科的な処置などを受けることはできず、

下痢、マラリア、肝炎など感染症に罹ると重症になりやすいが、これらの病気の治療薬は妊婦には使うことができない。②高度障害 (急性高山病) は妊婦でも同じように起こるが、ダイアモックスは禁忌である。高所では呼吸数が多くなるが、妊婦は横隔膜が挙がるために、過呼吸になりやすく、多くの水分が呼気から失われるので、十分な水分摂取が必要である。③高所が母体と胎児に及ぼす影響については、妊娠初期は平地でも自然流産が多いので、妊娠の可能性のある人、自然流産のリスクのある人は高所へ行かない方がよい。登山などの運動をせず、また妊娠中毒症の徴候がなければ、2500m程度の高さに数時間から数日滞在しても、母体・胎児に影響はない。数週から数か月滞在する場合は、妊娠中毒症や胎児の発育異常を早く察知するために定期的な検査が必要である。④妊娠後期 (妊娠5か月以降) で、母体に妊娠中毒症の徴候がある、胎児の発育異常が予想される、母体に心・肺疾患や貧血がある、禁煙できない、といった場合には高所に登ってはならない。⑤岩登りとスキーについては妊娠3か月までは腹圧を過度にかけなければ問題ないが、妊娠後期はケガを起こしやすいのでご法度である。(③以下は研究はされていないので、事例に基づく推定による)

テンギ・ラウ・タウ・シニア登山隊2004
登山報告

ネパール・ロールワリン・ヒマールのテンギ・ラウ・タウ (6943m) 北稜 (未踏ルート) からの第2登を目指して登山活動を行っていたシニア登山隊は、登頂を断念し、5月17日、6人の隊員全員無事に帰国した。

4月18日にBC (4750m) 設営、C1 (5200m)、C2 (5800m) とルートを延ばし、5月2日にBCにて全員休養の後、2隊に分けて頂上へ向けて登攀開始。C2のある広い稜線は烈風が吹きすさび、吹き溜まりでは毎日膝までのラッセルを強いられ、シェルパは地吹雪のなかルートワークをする。5月6日、ダブルアックスで雪壁を登攀するが、6250m地点でスラブ帯に阻まれる。C2に戻り別ルートの可能性、食料、フィクスロープ、時間などを検討した結果、全員納得のもと、今回の遠征を終了することとなった。

ご支援、ご協力してくださった皆様、まことにありがとうございました。

2日、地下鉄4号線に乗り、舎堂で下車。冠岳山に登るため、ガイド氏と10時に約束したが、少しのんびりしたようだ。舗装道を南へまっすぐ歩き、道なりに観音寺まで行き、右の山道に入る。岩稜地帯を山頂を目指して縦走する。無線塔があるので行手はよくわかる。天気がよく、ソウルの市街地は目の下である。マダンバウイ (岩塊)、モクタクバウイを越えると山頂が近づく。戀主台 (ヨシジュデ) の東壁ではザイルにつかまって、左ヘトラバースすると山頂の岩場へ出た。ここは軍事基地で警備兵がいる。

階段を降りて戀主庵で休憩。食後、果川に降り、地下鉄で明洞に戻る。夜は打上げで、韓国から応援の2人の方に感謝を申し上げた。3日 (木)、午前中南大門とロッテでショッピング。午後、ジャンボタクシーで仁川空港に行き、成田へ向かった。

今回は毎日晴天で、山はどれもいい山だと全員の評判がよく、ゴミも少なく、韓国のハイカーのマナーが格段によくなっていた。国立公園管理当局の努力もあるの

(石田 稔郎)

富山支部

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

残雪の立山で

第4回5支部合同懇親山行

昨年の京都・八ヶ峰に引き続き恒例の5支部合同懇親山行が、富山支部の主催で「残雪の立山に遊ぶ」と題して、5月22、23日の両日開催された。集合場所の天狗平山荘(標高2300m)には、あいにくの雨模様のおかげ、参加者が続々と到着、受付では1年ぶりの再会を喜ぶ声が聞かれた。福井支部の面々は、前日から入山し、春山スキーを満喫したとのこと。小屋の周囲には雷鳥が姿を現し、裏の天狗山でひと滑りする人も。夕方6時からの懇親会は食堂に



富山、京都、岐阜、福井、石川から天狗平山荘に集合

64名が支部単位に着席、木戸富山支部長の開会の挨拶で始まる。斎藤惇生顧問の挨拶、山荘オーナー佐伯賢輔氏(木戸支部長が隊長をつとめた1983富山岳連ナンガバルバット登山隊の隊員)の歓迎の挨拶のあと、京都、岐阜、福井、石川、富山の各支部毎に起立して参加者の自己紹介があり、特別参加の北海道支部長谷川雄助事務局長の乾杯で宴会に移る。地元の高柳会員の山菜コブ締めや村上会員のイワナの骨酒がふるまわれ、富山の地酒5銘柄の聞き酒では、人気投票した参加者の中から抽選で4号瓶がたぐさんプレゼントされた。石川支部の大庭代表幹事から

来年の白山での懇親山行の案内があり、岐阜支部高木顧問の挨拶で終了した。外は冷たい雨。

翌朝は、朝食の後出発準備を整えた人から天狗平山荘の車2台で深いガスの中、室堂までピストン輸送してもらう。「雪の大谷」は例年より雪が少ない。室堂ホテル屋上に全員集結し、各支部毎に地元のコースアドバイザーがひとりついてガスの中を出発する。登山しないグループはナチュラリストの渋谷会員が引率するミクリガ池散策コースへ(雷鳥が歓迎してくれ大満足)。

一ノ越で小休止のあと、雪のない登山道を雄山めざして登る途中からガスが晴れてくる。3003mの山頂雄山神社で剣岳や後立山連峰を展望。帰りは福井支部の人数が一ノ越からスキー滑降を楽しむ。下り坂の天候のなか全員無事天狗平山荘に帰り、カレーライスの昼食をとりつつ情報交換。テレビは北朝鮮から帰った子供たちの特別番組を流していた。降り出した雨のなか、山荘前で全員で写真をとった後、定期バスで下山し解散した。

(山田 信明)

秋色のスイスを写真を撮りながら、楽しくハイキング

憧れの山上ホテル連泊と 秋のスイス写真ハイキング 9日間

【スイスインターナショナルエアラインズ利用】

東京発着

10月5日(火)~10月13日(水) ¥318,000

10月12日(火)~10月20日(水) ¥328,000

国土交通大臣登録旅行業第490号/社日本旅行業協会正会員

◎ボンド保証会員



アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

100歳と75歳の山スキー感
日本の真ん中5支部の山行が富山支部のお世話で、天狗平山荘にて5月22、23日に開催された。
福井支部からは前日に10人が参加。ミクリガ池にお昼に着くも天気が悪く、レストランで昼食休憩。15時頃晴れてきたのでスキーの用意をして地獄谷へ滑り込む。快適だ。地獄谷の噴煙のところで立ち止まり休憩をしていると、3人歩いて降りてきた。三浦敬三さんだ。100歳とは思えない足取りだ。私のフリートレックのスキーを興味深く見られた。お声をかけ、昨



三浦敬三さんとともに

年3月バレー・ブランシュを滑ったことをお話しした。三浦さんは私の父親と同年代なものと、父が死亡してから50年が経過したので感慨深い。100歳の三浦さんの前では私などまだまだ青二才だ。

22日は風が強く、霧で視界が良くなかったが、江田さんが剣沢小屋までスキーで行くとのことで行く。ミクリガ池温泉から雷鳥沢まで行き、剣御前小舎まで登る。風が強い。ここからスキーを付け、剣沢小屋まで白霧のなかを滑る。無事に小屋に到着。休憩をしてまた登り返し、剣御前小舎から雷鳥沢を快適に滑った。

23日は立山の雄山に登る。一ノ越から快適にスキーで天狗平山荘まで滑る。三浦さんとお会いして元気をもらい、未来が明るくなった感じがした。

(宮本 数男)

図書受入報告 (2004年5~6月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
鈴木裕子	山と私	288pp/26cm	鈴木裕子(私家版)	2004	著者寄贈
岡野武雄(編)	地質調査所蔵書目録:東アジアおよび東南アジア(1945年以前のもの)	191pp/30cm	地質調査所	1995	発行者寄贈
地質調査所(編)	地質調査所百年史	162pp/27cm	地質調査所	1982	発行者寄贈
石川直樹(著)本尾久子(編)	POLE TO POLE 「極圏を繋ぐ風」 石川直樹写真集	160pp/28cm	中央公論新社	2003	著者寄贈
岩崎元郎	登山不適格者(生活人新書 No.072)	217pp/18cm	日本放送出版協会	2003	著者寄贈
白旗史朗	山、わが生きる力	270pp/22cm	新日本出版社	2003	著者寄贈
白旗史朗	定本 尾瀬:その美しき自然	222pp/22cm	新日本出版社	2002	著者寄贈
Werner Otto von Hentig	Von Kabul nach Shanghai	284pp/23cm	Libelle Verlag	2003	W.Heichel氏寄贈
Hans-Ulrich Seidt	Berlin, Kabul, Moskau	510pp/23cm	Universitas	2002	W.Heichel氏寄贈
小林満男	山旅ロマン:台湾と中国・四川省の山	136pp/19cm	碧天舎	2004	著者寄贈
日本河川協会(編)	河の水源にロマンを求めて(首都圏編):河川整備基金助成事業実績報告書	374pp/30cm	日本河川協会	2003	発行者寄贈
新業社(編)	奥天竜ろまん紀行:(第1巻)一億年の旅 南アルプス	143pp/29cm	新業社	2004	出版社寄贈
草川啓三	近江 湖西の山を歩く	174pp/21cm	ナカニシヤ出版	2004	出版社寄贈
山田哲雄	私の山日記:YAMADA の山スキーワールドⅡ(私の山日記 Vol.4)	259pp/21cm	山田哲雄(私家版)	2004	著者寄贈
東高山岳部編集委員会(編)	続・菊葉の岳人たち:東京高等学校山岳部史	67pp/26cm	峠の会	2004	発行者寄贈
東京都庁山岳部(編)	北面氷河を踏む:カラコルム登山報告書 Disteghil Sar	30pp/26cm	東京都庁山岳部	1989	発行者寄贈
福田忠	分水嶺ひとりある記	290pp/19cm	風濤社	2003	著者寄贈
C.アレクサンダー(著)畔上司(訳)	エンデュアランス号	567pp/23cm	ソニー・マガジズ	2002	出版社寄贈
加藤久子	アルゼンチン物語	139pp/19cm	東京図書出版会	2004	著者寄贈
羽根田治	ユー・ジ・ザ・クライマー:世界最強のクライマー 平山ユー・ジのライフストーリー	302pp/21cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
山野井泰史	垂直の記憶:岩と雪の7章	244pp/20cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
無名山塾(編)	岩崎元郎校長の「決定版 登山学」	223pp/21cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
P.シェーベルト(著)黒沢孝夫(訳)	続・生と死の分岐点:岩と雪の世界における安全と危険	284pp/22cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
内田修	北アルプス登山案内:特選50コース(南部編)	173pp/24cm	山と溪谷社	2003	出版社寄贈
村越真(編)	最新GPS活用術:ナビゲーションマイスターになる	191pp/21cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
清水健	U.S.A.ナショナルパークハイキング案内	213pp/26cm	山と溪谷社	2003	出版社寄贈
鷹沢のり子	芦峰寺ものがたり	278pp/19cm	山と溪谷社	2001	出版社寄贈
藤原高雄・羽根田浩	レスキュー・ハンドブック	159pp/19cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
ダグ・スコット	ヒマラヤン・クライマー	192pp/31cm	山と溪谷社	1992	出版社寄贈
堤信夫	全図解クライミングテクニック	167pp/21cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
真辺征一郎	伊豆・箱根の山を歩く(フルカラー特選ガイド No.15)	159pp/21cm	山と溪谷社	1999	出版社寄贈
北山真(編)	フリークライミング 日本100岩場 (計2冊)	/22cm	山と溪谷社	2003	出版社寄贈
山と溪谷社出版部(編)	ヤマケイ・アルペンガイド (計26冊)	/19cm	山と溪谷社	2000-1	出版社寄贈
	新・分県登山ガイド (新刊分:9冊)	/21cm	山と溪谷社	2003-4	出版社寄贈
	ヤマケイYAMA Pシリーズ (計9冊)	/21cm	山と溪谷社	2003-4	出版社寄贈
Ezan Wilson (ed.)	The Journal of the Mountain Club of South Africa 2002 (No.105)	199pp/24cm	Mt.Club of South Africa	2003	発行者寄贈
Petro Grobler (ed.)	Index to the Journal of the Mountain Club of South Africa (Vol.82-103)	78pp/24cm	Mt.Club of South Africa	2003	発行者寄贈

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき10000字程度でお願いします)



イラスト・宇都木慎一

マライーニ氏の告別式に参加して

谷 泰

6月8日、当会の名誉会員であるマライーニ氏が逝去された。

6月10日、マライーニ氏の告別式が、フィレンツェの町の中心パラッツォ・ヴェッキオで4時から行われることを知らされていたわたしは、2時間ほど前に汽車でフィレンツェに到着しました。パラッツォ・ヴェッキオは、かつてルネッサンス時代の都市中心、市の政庁舎があったところで、その前にはよく知られたミケランジェロの若き頃の作品ダヴィデの彫像が立っているところです。そしてここでも庁舎の前の広場は、観光客

であふれかえっており、およそこんなところのどこで告別式があるのかという趣きを示していました。いったいこの建物のどこで？こんな思いで、この高い石造りの建物の一方にある入り口脇に立っている女性警官に、フォスコ・マライーニ氏の葬儀に来たが、どこであるのかと尋ねれば、彼女は入り口の奥の暗い空間を指さしました。たしかに指さされた方向には細長いテーブルが置いてあり、そこに記帳用の帳面が3冊あまりボールペンとともに置いてありました。告別式には出られず、すでに記帳だけを済ませて立ち去った人もあるのか、すでにいくつものサインがされていました。ともあれ1時間ほど早く来たために、まだほとんど誰もいず、記帳を済ませ

たのですが、そのテーブルから奥、右を見れば、うすくらしい空間のむこうにひっそりと遺体を入れたお棺がみえました。棺のまわりには20鉢ほどの花が飾られているだけ。さしずめ日本だったらその花鉢には、献花をした団体や個人の名前が書かれているのですが、およそそんなものはありません。そしてその脇に30席ほどの折りたたみ椅子が並んでいました。

棺の中で永遠の眠りについていたフォスコは、やや萎縮した感じを受けたにしても、穏やかな表情で横になっていました。そして誰か親族がもたせたのであろう、バラの1枝が右手におかれてありました。わたしはフォスコに向かって手を合わせてからあと、右手に彼の娘ダーチャ(現代イタリアの著名な小説家のひとり)がいることに気づき、挨拶をしました。そして苦しんだのかとたずねると、いや眠ったまままかったということでした。実は心臓にペースメーカーをふだんはつけていたのですが、その取り替えのために、手術をするべく入院をしていた。その手術後のことで、その晩は意識がはっきりしており、家人も家に帰っ

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデュをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ**
<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社 **フェロートラベル** ボンド保証会員

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援：スイス政府観光局



ていた。その夜半のことであつたようです。

4 時にもどつてみると、すでに告別式場には100人近くの人が来ておりました。折りたたみ椅子は女性と老人のため、あとは皆立ったままで告別式の開始を待ちました。そしてその間、フォスコがあらかじめ死を予期して書いておいたという手記が配られました。

そこには、いずれの宗教、キリスト教も、イスラム教も、ヒンズー教も、仏教も、いや神道も、天理教もそれぞれに意味深い教え(啓示)をもっているのだが、それらの彼方に、文化や宗教をこえて到るところ、いかなる時にも遍在する永遠の啓示とでもいうものがある。それは自然の中で、そして人との交わりの中で感得するものだと思う。自分はそういうことを長い山との交わり、長い異なる地の人々との交わりを通じて信ずるようになったとでもいうことが書かれており、自分がなぜキリスト教の教会の葬儀ではなく、まったくそれらと関わりのない俗な葬儀を求めるか、その理由が示されていました。

さてこの文を読んでいるうちに、

ほどなくフィレンツェ市に固有の祭服を着込んで、片手にトランペットを持った市の儀仗兵が3人、市長とともにやってきました。そして娘のダーチャが前に立ち、式次第としてこれから追悼の言葉を述べる予定者を紹介する言葉を発し、告別式は始まりました。

そこで弔辞を述べたのは、フィレンツェ市長、イタリア山岳会フイレンツエ支部の会長、イタリア日本学研究協会会長、山岳会ガロファニャーナ(アペニン山脈のフォスコの山小屋のある地域)地区会長、日本大使、司祭になったが、山に行くことをフォスコに教わつて自然の美しさ、そして無償の山登りのうちに喜びを見いだすことを教えられたというフォスコの若いときの友人、そして妻ミエコといった人々でした。

いずれもフォスコに対する友情と敬意に満ちたものでした。そして最後にトスカーナの地方山岳会のグループによる山の歌、死せる友を悼む歌を含む3つ、しつとりとした合唱で、フォスコの死を悼みつつこみ上げてくる涙をぬぐう人の姿も見受けられました。最後にチベットの僧侶が3人読経、そ

して市の祭服を着た楽師の哀悼のためのトランペットの吹奏で式は終わりました。

フォスコはむしろ世界に広く多くの友人をもっているために、この告別式はせいぜい200人くらいの参列者でしたが、彼らしい葬儀だったというのが印象でした。この日の主要な新聞には一面ないし半面を占めたかれの追悼記事が載つて、それなりに文化面でのひとつの重要人物の喪失として受け止められていることが看取できました。

下落合町内会の話

松丸 秀夫

昭和30年代の前半に山岳会・下落合町内会と仮称した談話会がありました。メンバーは藤木九三、島田巽、中田勇吉、初見一雄、加藤泰安、松丸秀夫の6人、持ちまわりで家に集まっていた。

加藤泰安さんは1958年のチヨゴリザに参加したが、キャンプをのぼして行くと、霧の晴れ間にテントが見える。ドイツ語が書いてある。前年に消息を絶ったヘル

マン・ブルのテントに違いないと思つたが、そのときはテントを開けて見る勇氣はなく、キャンプに戻ったものの「今晚眠れるか」と不安であつた。

「泰安君、意外にしおらしい、ブルの幽霊に取りつかれたら『泰安ブル』というアルピニストになつて面白かつたのに」という野次がとんだのを覚えてる。翌日思いきつてテントを開けてみたら空で、これがブルの雪庇踏み抜き説の根拠となつた。

初見一雄さんは北大時代は農学部の特林学科で、大変居心地のよい学生生活を送っていた。卒論は「エゾ山鳥の生態学研究」で、生息している原生林が切られて人工林に変わつたら、どのように適応していくかを調べる、という難問。

この実験に適した広い原生林として樺太の中央高地が選ばれたが、僻地で3か月も過ごす家がない。原生林に近い監獄部屋に居候すること、樺太庁の林学の先輩の尽力で実現したのだが、先輩も森林動物学の試験に苦労していて、追試験に落ちて七転八倒した人も知っている、その学生というので尊敬してくれたのは良かったが、

教室からの依頼状を差し出すと、夕食をご馳走してくれた。先輩の期待に応えて秀才らしく振る舞うのは疲れること甚だしい。

秀才らしく振る舞うには酔っ払いと反対のことをすれば良い。目は澄んで利口そうな目をする。口元は微かに笑みを含み、次は立ち居振る舞い、先輩は満足してくれただが、こちらは疲れて汗びっしょり。先輩が帰ったらすかさず悪党に変身した。ルパン、石川五右衛門、それらをこっちゃ混ぜにして化けるとすこぶる快適、疲れがいつぱんに吹き飛ぶ。

その夜遅く「ヤイ松丸、バカヤロウ 出てこい バカヤロウ」と私の家の外で怒鳴っている声。窓から見ると初見さんです。翌朝「昨夜はなんですか、私の住まいは住宅ですから困ります」とねじこむと初見さんは素直に「申し訳ありません。お許しください」という。秀才になるに疲れて逆に人恋しい悪党に化け直したのでしよう。

初見さんは大学院に進み、忍路の臨海実験所で実験発生学の実験に取り組んだ。私は初見さんを偲んで忍路を訪れたが、小さな入り江のゴロタ石の磯に質素な木造の

小屋が建っていた。スコットの南極の基地・ビクトリア・ハットというのだそうで、イギリス人がフールド実験のために建てた様式を模したものだと聞いた。入ってみると人はいなかったが、大きな解剖顕微鏡が白い布に被れて鎮座していた。

忍路にはニッカウイスキー本社工場があつて大酒呑みの初見さんには理想郷かと思えたが、修士課程を終えるとすぐに東京に帰ってこられた。環境が良すぎるのも疲れるのではないかと思った。

中田勇吉さんは富山の人だから佐々成政の話。成政のざら峠越えはしっかりと記録がなく諸説がある。中田さんは内蔵助平にベースをおき、黒部川の雪の状態を見て徒河点を探ったと考えられるという。軍勢の移動、補給は大変だったと思うが、それはアシクラの衆が担当した。内蔵助平は佐々内蔵助成政からつけられている。

立山、黒部に詳しい五十嶋さんによると、成政は立山温泉から鳶山、ヌクイ谷経由で黒部川を渡ったと考えられるそうだ。

へ6月12日第46回有志閑談会の講演より

「徳本峠越えとウエストン祭」に参加して

富川 美知子

昨年新入会員として入会した時から、あこがれの「徳本峠越えとウエストン祭」にはぜひ参加したいと思っていました。その心待ちにしていた6月5日がやっと近づき、山仲間の佐藤妙子さんと2人で前日に松本入りをし、5日に集合場所に駆け付けたところ、大勢の記念登山参加者が集まっていたのに驚きました。晴天の中、6時にリーダーの本田会員、宮崎会員、嶋崎会員の山研委員の同行のもと、30歳から70歳までの男女9名は、島々宿から徳本峠目指して出発しました。

はじめは、島々谷の川沿いをのんびり歩きながら二股に到着。そこから南沢の沢沿いに登ってゆくと、立派な木の橋や、朽ちて流れが真下に見える橋等をドキドキしながら通り過ぎ、足元にはヤグルマソウやニリンソウの群生、ツクパネソウや葉の中央に白い可憐な花を乗せたサンカヨウを見つけたりと嬉しい山歩きとなりました。

初対面だったメンバーも、本田リーダーの話しかけに、しだいに打ち解け、峠への最後のジグザグの斜面では、息遣いも多少荒くなりながら、お昼過ぎに徳本峠に到着しました。その時、正面の青空に浮かびあがった穂高連峰を見て、皆感嘆の声をあげていました。小屋の前でおいしいトン汁をご馳走になり、上高地に向けて下山したのは14時頃で、山岳研究所上高地山荘へは17時前に全員無事に到着しました。夕食時は、山荘直行組2夫婦も交えての会食会となり、山研スタッフの用意してくださつ



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。



株式会社 アトラストレック

(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030

大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111

名古屋/〒464-0807 名古屋区千代区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

たナベパーティーでまた親交を深めました。

翌6日には、ウェストン祭参加のためレリーフ前に集合。10時から始まった碑前祭は、安曇村の小學生によるレリーフへの献花やエーデルワイス・クラブの人たちによる「ウェストン祭の歌」の合唱がありました。次いで平山会長のウェストンが東北の大飢饉や関東大震災の時、積極的に募金活動をして経済的にも援助してくれた話や、芳賀副会長のウェストンが入会していた英国山岳会の話などあり、小雨交じりの天気の中、全員が傘もささず聞き入っていた姿が印象的でした。

その後、12時からは信濃支部のご厚意により白樺荘で午餐会があり、皆出席して山の話に花を咲かせていました。

信濃支部の皆さん、本田リーダー、山研の方たち、そして同行してくださった同期の皆さん、楽しい思い出をありがとうございます。

.....
●東西南北欄の見出しイラストを募集します。ルームまでどしどしお送りください。

会務報告

6月理事会

日時 6月9日18時30分～20時30分

分

場所 日本山岳会 会議室

〔出席者〕平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田監事、宮崎、鰐坂、重廣各常任評議員

〔委任〕 田村理事、一力監事、小倉(董)、西村常任評議員

〔審議事項〕

1 長期目標検討委員会よりの提案 田邊

別紙のように委員会報告がなされた。ただし今回は財務、会則変更、支部には言及していない。

今回の答申について、今後の理事会で検討を加え、来年の総会に計り実行に移すこととした(継続審議)。

〔報告事項〕

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 会報「山」6月号の内容につ

いて 今村

6月号のトップ記事は通常総会

報告

2 100周年記念事業募金状況 芳賀

報告

①2004年5月31日現在の会員募金は、募金がスタートした時より総額1350万円である。次回分析した上で詳細報告する。

②企業募金では読売新聞からの1000万円が決定した。

③有力会員、大学山岳部OB会、その他法人関係への募金については募金趣意書を作成し、依頼書を出す。

④支部での企業よりの募金は免税処置の手数料等20%を本部に納めてもらい、80%は支部で使うことができるようにする。

⑤免税処置は6月中にもらえる見通しである。

3 東京都山岳連盟評議員会報告 藤本

会長に守屋氏が就任、副会長4名は会長の任命、理事は立候補による投票であるが、定員内19名の立候補であったので全員そのままで決定された。

年内予算1890万円の内訳は、会費1000万円、保険、耐久レ

ース、講演会からの収入500万円その他400万円である。

4 山研開所報告 小川

山研は4月28日開所した。ウェストン祭、徳本峠越えは大盛況であった。

5 山岳4団体三役懇談会開催通知 藤本

山岳4団体三役懇談会が7月9日(金)東池袋で開催される。

6 福岡支部幹部交代報告 藤本

新支部長・中山健(10309)新事務局担当者・渡部秀樹(9826)

7 ルーム夏期閉鎖期間報告 藤本

8月14日(土)～22日(日)とする。

8 その他報告

①山岳団体自然環境連絡会 篠崎

6月7日山岳団体自然環境連絡会が本会で開催され、その席上、

神崎会員よりUAAA総会が10月28日～11月3日開催される。

②平成16年度予算執行について

別紙のようにルールに従って処理してほしい。 橋本

③計報

小倉元副会長(73歳)が6月6日に逝去された。 藤本

学生部パーティー、ムスタンの未踏峰へ

この夏、学生部の5人がネパールのムスタン・チーピ・ヒマール(6650m)初登頂に向けて遠征隊を組織しました。学生部による海外遠征は、98年ブータンの未踏峰以来実に6年ぶりとなります。外国人の入域制限により静寂を保ってきたネパール中西部の北、ムスタン地域での活動に期待したいと思います。

隊の名称	日本山岳会学生部ムスタン遠征隊2004
目 的	ネパール・ムスタン、ダモダールヒマール Chhiv Himal (6650m)の初登頂および Selibun (6328m)の登頂
日 程	2004年8月18日先発隊出発、8月25日本隊出発、9月7～23日登山活動、10月3日帰国(47日間)
隊 員	隊長・和田岳史(千葉大5回生)、副隊長・吉永岳央(早稲田大4回生)、柴田由布子(学習院大4回生)、加藤健一郎(立教大4回生)、古関光浩(早稲田大2回生)

- フオスコ・マライーニ名誉会員(91歳)が6月8日に逝去された。
- ④百年史の配布方法 芳賀 百年史委員会の意見を聞いた後、7月理事会でアンケートをしたい。
- ⑤100周年記念登山について 藤本 海外における登山については、事前に検討する機会を持ちたい。
- ⑥理事会欠席について 藤本

事前に文書にて届けていただきたい。

■会員異動

物故

大田祥子(12685)	04・5・20
福田正則(9399)	04・6・4
小倉茂暉(4240)	04・6・6
神谷恭平(8162)	04・6・12
Fマライーニ(4177)	04・6・8

退会

加藤雅大(6662)	宮崎
高岩俊昭(9900)	京都
坂野ちえ(10089)	関西
蔵田文子(10317)	熊本
出来田耕介(10522)	北海道
川村明夫(11074)	関西
足立友規子(11487)	関西
山本宗彦(11755)	
終身会員	
村田 進(5642)	
伊藤博夫(5749)	

ルーム日誌

6月

14日	委員会 アルパインスキー
10日	楽部
9日	山自然学研究会 山想倶
8日	インスキークラブ 休山会
7日	理事会 つくも会 アルパ
4日	総務委員会 自然保護委員会
3日	01会
2日	山岳地理クラブ
1日	図書委員会 アルパインス
	ケッチクラブ 九五会
	自然保護委員会 100周年記念フォーラム委員会
	山岳地理クラブ
	フォトビデオクラブ

韓国最高峰 漢拏山縦走 白鹿潭(1935m)登頂 3日間
 【日程】10/22(金)～24(日) 【代金】118,000円

紅葉の桃源郷フンザとグルキン氷河 8日間
ラカボシ展望トレッキング
 【日程】10/22(金)～29(金) 【代金】258,000円

総合カタログ 2004年度 無料
 ぜひご請求ください!

山旅専門 旅行社 **アミューストラベル**
 〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階
 TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189

30日	図書管理委員会 アルパ
25日	図書委員会
24日	青年部 山遊会
22日	自然保護委員会 九五会
21日	資料・映像委員会
19日	SUN燦会 クラブ92会
18日	資料・映像委員会
17日	科学委員会 ゆきわり会
16日	三水会
15日	事業委員会 山研運営委員
	会 インターネット小委員
	会 00会
	クラブ

6月来室者487名

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆「秋の分水嶺踏査登山」参加者募集

一般会員参加の第2弾として、左記の2つの会が主催する山行への参加を募集いたします。

●山岳地理クラブ

日程 10月2(土)、3日(日)

行程 甲子山から三本槍岳

宿泊 甲子温泉大黒屋

集合 南浦和駅(貸切バス使用)

定員 先着10名

費用 2万2千円(宿泊・交通費)

申込 9月10日までにFAX、またはEメールで近藤善則宛

(FAX) 03-33315109 9

4 hikarikon@apricot.oc

nune.jp)
*申込者には詳細案内を送付いたします。なお、山岳保険加入者を条件といたします。

●科学委員会

日程 10月16日(土)・JAC創立者の一人で第六代会長を務めた武田久吉氏のメモリアルホールを見学

17日(日)・馬坂峠・帝釈山・田代山・田代山峠。

集合 池袋駅西口の芸術劇場前に8時。貸し切りバス使用。

宿泊 民宿「松源」(福島県松枝岐村上ノ台)

定員 先着20名

費用 1万8千円(宿泊・バス代を含む)

申込 9月15日までに住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号を記入して、ハガキかFAXまたはEメールで平野彰宛(〒336-0002

3 さいたま市浦和区神明2-14-3 503 FAX 04

8-8345235 E-mail: auto-akira@nvi.biglobe.ne.jp)

*申込者には詳細を送付します。

◆第36回「山岳図書を語る夕べ」

1947年5月、山岳雑誌『岳人』が創刊。60年近い歳月を重ねて、やがて700号を迎えます。

日本の登山界の歴史を見つめ、数々の珠玉の記事を生み出し、影響を与えてきたその雑誌の誕生と

成長、周辺の状況などを『岳人』誌前編集長にお話いただきます。

講師 永田秀樹氏(第10代編集長)

日時 10月25日(月)18時30分

場所 日本山岳会集會室

演題 『岳人』誌60余年の軌跡

◆八溝山自然観察会

自然保護委員会

袋田の滝で有名な大子温泉に宿泊して、翌日は茨城県最高峰の八溝山国有林で、ブナ、ナラ、カエデなどを主とする冷温帯性植物群落保護林を観察します。北方系と南方系要素の混生する紅葉たけなわの保護林です。

日時 10月30(土)、31日(日)

集合 17時 茨城県久慈郡大子町「リバーサイド奥久慈」

解散 常陸大子駅 15時20分

講師 藤田泰氏

費用 9千円(宿泊、バス代含む)

定員 先着25名

申込 8月末日までに氏名、住所、連絡先を明記しハガキかメールで龍久仁人宛て(〒332-0031 川口市青木1-21-7 402 E-mail: kun@cablenet.ne.jp)

*申込者には詳細案内を送ります。

◆氷河公園の実地研修山行

高山植物の保護などには氷河地形を知る必要がある。昨年に続き氷河公園の檜沢・天狗原の錦秋の山岳美を楽しみながら学ぶ。一般会員の参加も歓迎します。

日程 10月1日(金)・3日(日)

集合 1日7時30分山研集合(前夜泊も可)、8時出発

行程 山研・徳沢・檜沢・ロッジ(泊)・天狗原・氷河公園・横尾山荘(泊)・横尾岩小屋・横尾・上高地

費用 実費2万円(資料、宿泊)

定員 12名まで

同行 L船橋 SL(説明員) 櫛田勤

申込 9月15日までに船橋明宛

(FAX) 0467-321301

1)

*山岳保険に加入のこと

◆中央分水嶺踏査山行 つくも会

つくも会としての中央分水嶺踏査の分担任は上越国境です。定例山行として多くの方々に参加できますように企画しました。つくも会員以外の参加も歓迎です。

日程 9月18日(土)10時40分 東所沢駅集合・猿ヶ京温泉(泊)

19日(日) 三国峠・稲包山・

(18)

今年もさげんで会いましょう

三国スキー場―猿ヶ京温泉
(泊)
20日(月) 東所沢へ
費用 2万5千円程度(交通費、2泊4食代含む)
申込 8月末日までに往復ハガキかメールで会員番号、氏名、連絡先、分水嶺山行を明記し芦沢敏夫宛(〒239-0843 横須賀市津久井3-11-6 ☎ashi.papa-2@yahoo.co.jp)
◆10月山行「雨飾山」山想倶楽部
紅葉の雨飾山と新赤倉温泉・小谷温泉を巡る山行です。JAC会員の方、参加歓迎です。
日程 10月16日(土)10時45分 新宿西口安田生命ビル前集合。
新赤倉温泉ユアーズイン(小笠原会員経営) 泊。
17日(日) 登山口までバス、雨飾山往復、小谷温泉にて入浴、16時バスにて新宿へ。21時頃到着予定。
費用 約1万9千円(往復バス、移動、宿泊代含む)
定員 先着20名

申込 9月10日までにFAXかメールで竹内広弥宛(☎0466-34-5745 ☎hi-oya@mail2.alpha-net.ne.jp)
*申込者には詳細を送付します。
◆アンナフルナ内院トレーニング・17日間 山想倶楽部
ヒマラヤのふところ深くアンナフルナ山群を歩くアルペンコース
日程 11月5〜22日(若干のずれ有)
費用 10名以上の場合33万円程度
集合 仙台、成田、名古屋、関空、福岡よりバンコクで合流
申込 9月20日までにFAXかメールで井上功宛(☎046-88-2344 ☎osui-one@msn.com 携帯090-3332-7311)
*申込者には詳細を送付します。
◆日本山岳協会・巡回展
●奈良展
日時 9月4日(土)〜26日(日) 10時30分〜21時
会場 モンベルクラブ奈良店 & F.O.店(☎0742-1367452)

●諏訪展
日時 10月2日(土)〜24日(日) 10時〜21時
会場 モンベルクラブ諏訪店(☎0266-71-1577)
●南町田展
日時 11月2日(火)〜28日(日) 10時〜20時
会場 モンベルクラブ・グランベリーモール店(☎042-288-3535)
*いずれも入場無料
◆山里寿男個展「空翔ける旅」(山なみ巡礼)
会期 9月5日(日)〜12日(日)
時間 10時30分〜18時(初日は12時から、最終日は17時まで)
会場 銀座ギャラリームサシ(ホテル西洋銀座向い・☎03-3564-6348・会場直通03-3561-5036)
◆編集後記◆
●酷暑お見舞い申しあげます。
今年は早い時期の台風襲来から空梅雨、長期の猛暑となりましたが、会員各位の夏山はいかがだったでしょうか。
雪溪の崩壊による事故の報道が

ありましたが、今年の夏は剣岳の三の窓の雪溪などもかなりズバズバに切れているようです。今月号の巻頭にあった「40歳以上の中高年登山者の遭難が遭難者の8割」の原稿を見ながら登山事故のニュースが気になります。
●会報の編集担当になって早3年がたち、登山活動の変化を痛感しています。これまで夏の号にはプレモンスーンのヒマラヤの高峰の報告がありました。大学や団体としての大きな遠征がほとんどなくなり、少人数の隊や公募登山隊への参加などが目立つようになりました。「シニア登山隊」は残念ながら結果になりましたが、6年ぶりに学生部の5大学6名がムスタンの未踏峰へ行きます。充実した経験を楽しんで元気に帰国することを願っています。(今村 千秋)

日本山岳会報 山 711号

2004年(平成16年)8月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社